

## なぜ いま「ならぬことはならぬ」か

—幕末の動乱期に「義」を貫いた会津魂の支柱である日新館教育に学ぶ—

會津藩校日新館 館長

宗像 精

\*本稿は平成30年11月10日、第66回奥羽大学歯学会における特別講演を記録したものです。

我が国の教育現場（家庭・学校・地域・職場等）が確たる不易の指針を失いながら、場当たりの指導しか思いつかぬ混迷の時代は、思えば戦後からずっと続いてきたのではないか。経済大国にはなったが、物資文明先行の醜さが染みついてしまったような気がする。かつて日本には儒教的モラルというものがあり、非常に分かり易い形で、青少年の訓育がなされていた。

まず、「五徳」という五つの徳目がある、「温・良・恭・儉・讓」これらは読んで時の如く分かり易いので、教えられなくても、こういう人格を備えればならぬということは、大体の人はできるかできないかはともかく解っていたのである。儒教的教育が否定された戦後にも、この五徳は家庭でも学校でも社会でも生きてきたのである。

一方、「五常」という五つの常識がある。

「仁・義・礼・知・信」である。問題はこちらである。概念的であるので、教育の場では解説を要し、そのうえ「修身」がなくなり、それに代わる道德教育（特設時間）にもばらつきが生じ、十分ではなかった。従って、これらのモラルは大人社会の変貌とともに、少年達の心から少しずつ消えていった。それでも「礼」と「知」と「信」は社会生活と密着しているので、多少形を変えてでも生き続けている。いや形を変えながら、寧ろ、偏重されていると言ってもよい。

例えば、職場に入って来る新入社員を見てわかるとおり、人材となる若者は礼儀正しく、「礼」があり、知性に富み、「知」があり、約束事は守り「信」があり、確かに実務上はそれで成立している。

おそらくこれらのモラルは元来が儒教国固有のものではなく、西洋や米国など国際的モラルの中にも存在したので、多少ニュアンスが変わっても存続し、かつ偏重されたものと思われる。今、少年達の心から消えようとしているのは「仁」と「義」の精神だということを何よりも強く叫ばずにはいられない。

「仁」は他者に対する思いやりや労りの心であって、特に高学歴社会の過当競争の中では死語と化した。たぶん「仁」は戦後自由主義と相容れなかったのであろう。今日では「福祉」とか「ボランティア」という形で社会に組み入れる他はなくなってしまった。まさに哀しいかな、それが実態である。「義」は人の正道であり、法治国家の名のもとにこれも死語と化してきた。法律を犯せば悪い奴で、法に触れなければ悪くないのである。しかし、本当にそれでいいのだろうか。

孟子は「仁は人の心なり」「義は人の道なり」と説いた。「仁」は人誰しもが持っている人間本来の心であり、「義」は誰しもが歩み従うべき道であるという意味なのである。

私たちの国は「仁」の精神を制度化し、「義」の精神を法律に委ねる「愚」をこの70年間せつせと繰り返してきたのである。我が国は世界にも珍しいほどの治安の良さを維持してきたのは、儒教世代が社会を牽引したからである。「仁」と「義」がこのまま薄れていったらこの先どのような世の中になるかは自明である。数々の凶悪な事件はその確実な予兆のような気がする。

「仁」と「義」は社会的モラルを人の心のうちに水のごとく湛える器だ。青少年の心を育てると

はこの器を作っていくことではないか。そのためにもきわめて分かり易い道徳である儒教教育の見直しは何よりも早道なのではないか。これは決して反動でもなく、単に古いものを懐かしむものでもない。温故知新という先人の箴言は奥深い。かつての事象から学び取ってこそ現代の事業に対応できる知恵も生まれるのではないか。衣食は足りたが、礼節は忘れられ、個人主義に名を借りた利己主義が大手を振って歩くようになった現代社会の中では、この道徳教育の重要性を肝に銘じていきたいものである。

大震災を転機にもう一度「ならぬことはならぬ」に学び、人間として恥ずかしくない「日本人の美しさ」を世界に示し、人類の平和に貢献したいものである。

大人は省みて恥じることがなければ、むやみに卑屈になったり萎縮したりせず凛たる態度を堅持して欲しい。信念に裏打ちされた恬淡たる態度は説得力があり人を動かすものである。難題にびくびくせず影に怯えることなく、「ならぬことはならぬ」で子供と勝負して欲しい。厳しきは優しさである。

この地で生まれ育まれた「ならぬことはならぬ」という精神的伝統文化は単なる飾り物ではなく、それを現代に生かすことが最も尊いという理のもと、「什の掟」の現代版として策定されたものが「あいづっこ宣言」である。平成14年から青少年の心を育てる市民行動プランとして推進運動を展開中。「ならぬことはならぬ」は会津の未来永劫の黄金律でもある。

あいづっこ宣言

- 一、人をいたわります
- 二、ありがとう ごめんなさいを言います
- 三、がまんをします
- 四、卑怯なふるまいをしません
- 五、会津を誇り年上を敬います
- 六、夢に向かってがんばります  
やっつてはならぬ やらねばならぬ  
ならぬことは ならぬものです

会津藩幼年者「什の掟」

- 一、年長者の言ふことに背いてはなりません
- 二、年長者にはお辞儀をしなければなりません
- 三、虚言を言ふことはなりません
- 四、卑怯な振舞をしてはなりません
- 五、弱い者をいぢめてはなりません
- 六、戸外で物を食べてはなりません
- 七、戸外で婦人と言葉を交へてはなりません  
ならぬことはならぬものです